

◆ 杉並都税事務所長賞 ◆

「未来への恩返し」

杉並区立向陽中学校 3年 山田 琉衣

私は、産まれてすぐにNICU（新生児集中治療室）に入院したそうです。

予定よりも早く産まれてしまい、体重も少なく、すぐに入院が必要だったからです。また、肺に水が入っている疑いがあり、黄疸も出ていたため、しばらく集中的な治療が必要だと判断されたそうです。

その時の写真を両親が残してくれており、少し大きくなってから見せてくれました。そこには、保育器の中で手の甲に点滴の針を刺した私が写っていました。また、周りには見たことがない医療機器がたくさん並んでいて、そこに入院するということの深刻さを伝えていました。

これは中学校に入ってから聞いた話ですが、私が必ず助かるという保証がない中、両親は何にも手に付かない状況だったそうです。また、母自身も私を産む前の数ヶ月間、産科に入院していたため、その時の精神的な負担は相当なものだったようです。

その後、機会があり医療について調べていた時、NICU についての記事が目にとまりました。以前、両親から聞いた私の話を思い出し、詳しく読み進めると、新生児医療の技術はかなり高度で、そのための投資も高額であることが分かりました。また、私の母のように出産前から入院し、その後、子供が NICU に入院した場合、掛かる費用はかなり高額になることを知りました。

私はその事実を知り、私が生まれた当時、両親には精神的な負担と同時に、かなりの経済的な負担があったのだと考えました。気になった私は、単刀直入にその時にかかった費用について聞いてみました。すると、意外なことに入院や治療に掛かった費用は、自治体の助成制度や医療保険などによって大半が支給され、自己負担はさほど多くなかったという事でした。そして、その費用は税金によって支えられているということを教わりました。さらに、産まれてから現在まで私が病院にかかった際の医療費は、自治体の「こども医療費支給事業」により全額が支給されていることを知りました。

今でも学校の授業などで、様々な種類の税金が社会の根底を支えていることを学びましたが、産まれてすぐに消えかけた私の命が、多くの人たちが納める税金によって繋がったことを知って、私は改めて税金のありがたさと大切さを実感しました。

私は将来、職業として医療の現場に携わることを目指しています。医療は税金で支えられている重要な社会保障制度の一つであることを、私は自分の経験から学ぶことができました。今の私はまだ、税金に助けてもらうことばかりですが、未来の私は、苦しんでいる人を助けることで、社会に貢献していきたいと思えます。